

# T&Dダブルブル・ ベア・シリーズ4 (マネープールファンド4)

## 第1期運用報告書（全体版） (決算日 2015年12月10日)

### お客様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「T&Dダブルブル・ベア・シリーズ4（マネープールファンド4）」は、2015年12月10日に第1期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

#### ◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／債券	
信託期間	2014年12月10日から2016年12月12日まで	
運用方針	安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行います。	
主要運用対象	ベビーファンド	「マネーアカウントマザーファンド」を主要投資対象とします。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。
	マザーファンド	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	ベビーファンド	株式への直接投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

## T&Dアセットマネジメント株式会社

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先

投信営業部 03-6722-4810

(受付時間：営業日の午前9時～午後5時)

<http://www.tdasset.co.jp/>

## 設定以来の運用実績、基準価額の推移等

### 設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額				債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 額
	(分配落)	税 分 配 金	期 騰 落	中 率			
設 定 日 2014年12月10日	円 10,000	円 —	% —	% —	% —	百万円 1	
1 期 (2015年12月10日)	9,999	0	△0.0	52.5	—	791	

(注) 基準価額および分配金は1口当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、組入比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、特定の指数に連動すること、または指数を上回ることを目的として運用をしていないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

### 当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率
		騰 落 率		
設 定 日 2014年12月10日	円 10,000	% —	% —	% —
12月末	10,000	0.0	—	—
2015年1月末	10,000	0.0	—	—
2月末	10,000	0.0	—	—
3月末	10,000	0.0	—	—
4月末	10,000	0.0	—	—
5月末	10,000	0.0	—	—
6月末	10,000	0.0	—	—
7月末	10,000	0.0	—	—
8月末	10,000	0.0	—	—
9月末	10,000	0.0	—	—
10月末	10,000	0.0	55.8	—
11月末	10,000	0.0	49.9	—
期 末 2015年12月10日	9,999	△0.0	52.5	—

(注) 基準価額は1口当たり。期末基準価額は分配金込み。騰落率は設定日比。

(注) 設定日の基準価額には、当初元本を用いております。

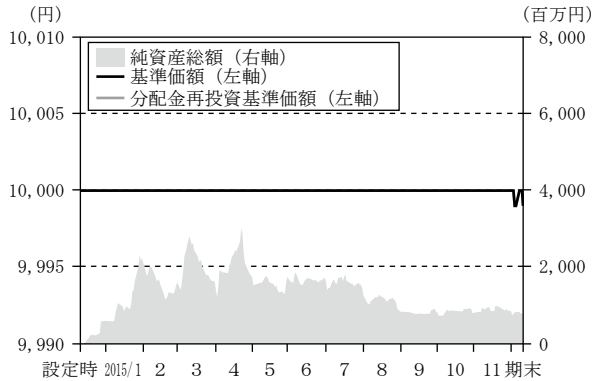
(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、組入比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、特定の指数に連動すること、または指数を上回ることを目的として運用をしていないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## 当期の運用状況と今後の運用方針

### ■ 基準価額等の推移



設定日：10,000円

第1期末：9,999円（既払分配金0円）

騰落率：△0.0%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、設定日（2014年12月10日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

（注）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

（注）設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

### ■ 基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は、主にコールローンおよび「マネーアカウントマザーファンド」へ投資した結果、マザーファンドの基準価額変動と、当ファンドの設定・解約および信託報酬の影響から、下落しました。

### ■ 組入ファンドの当期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
マネーアカウントマザーファンド	0.0%

### ■ 投資環境

#### 【国内短期金融市況】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは0.00%程度で横ばいに推移しました。

期初は0.001%でしたが、7月上旬に実施された国庫短期証券入札の結果が堅調だったことから利回りは一時△0.077%まで低下しました。その後、7月中旬の国庫短期証券入札の結果が軟調だったことから再び水準を戻し、0.00%程度に上昇しました。11月に入ると日銀による買入オペ金額の拡大をきっかけに再度利回りは低下し、期末の利回りは△0.037%程度となりました。

### ■ 当該投資信託のポートフォリオ

#### 【当ファンド】

当ファンドは、コールローンおよび「マネーアカウントマザーファンド」に投資を行いました。期末にかけては、同マザーファンドを概ね90%程度組入れ、残りはコールローン等で運用を行いました。

## 【マネーアカウントマザーファンド】

国庫短期証券の組入比率は、一時期マイナス利回りのため新規組入れを見送り低下した期間もありましたが、その他においては、概ね50%以上の水準とし、期末は54.5%程度となりました。残りの資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

## ■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

## ■ 分配金

1口当たりの分配金(税込み)は、基準価額水準、市況動向等を勘案し、見送らせていただきました。収益分配に充てなかつた利益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ■ 今後の運用方針

### 【当ファンド】

「マネーアカウントマザーファンド」の組入比率を高位に保ち、コールローンでの運用も継続する方針です。

### 【マネーアカウントマザーファンド】

今後の国内景気は、雇用所得環境の改善から持ち直すとみられますが、外需の弱さ等が下押し圧力として作用し、景気回復は緩やかなものにとどまるとみられます。さらに世界的な物価上昇圧力の低さを考慮すると、インフレ期待が急速に盛り上がる可能性は低いと考えられます。今後も日銀の国債買入が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は引続き低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、引続き短期国債等を中心とした安定的な運用を行います。

## 1口当たりの費用明細 (2014年12月10日から2015年12月10日まで)

### 費用の明細

項目	当期		項目の概要
	2014/12/10～2015/12/10		
	金額	比率	
平均基準価額	10,000円		期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬 ( 投信会社) ( 販売会社)  ( 受託会社)	0円 ( 0) ( 0)  ( 0)	0.004% (0.002) (0.002)  (0.000)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用 ( 監査費用) 合計	1 ( 1) 1	0.006 (0.006) 0.010	(b) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

(注) 「比率」欄は1口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

売買および取引の状況 (2014年12月10日から2015年12月10日まで)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
マネーアカウントマザーファンド	千口 1,086,267	千円 1,090,500	千口 326,725	千円 328,000

(注) 単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等 (2014年12月10日から2015年12月10日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

※利害関係人とは投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

自社による当ファンドの設定・解約状況 (2014年12月10日から2015年12月10日まで)

設定時残高 (元本)	当期設定元本	当期解約元本	期末残高 (元本)	取 引 の 理 由
千円 1,000	千円 —	千円 —	千円 1,000	当初設定時における取得

(注) 単位未満は切捨て。

組入資産の明細 (2015年12月10日現在)

親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	口 数	評 価 額
マネーアカウントマザーファンド	千口 759,541	千円 762,427

(注) マネーアカウントマザーファンド合計の受益権口数は1,051,336千口です。

(注) 単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成 (2015年12月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
マネーアカウントマザーファンド	千円 762,427	% 87.8
コール・ローン等、その他	105,910	12.2
投資信託財産総額	868,337	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

## 資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

### 資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年12月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	868,337,934円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	105,910,373
マネーアカウントマザーファンド(評価額)	762,427,532
未 収 利 息	29
(B) 負 債	76,994,604
未 払 解 約 金	76,940,000
未 払 信 託 報 酬	24,261
そ の 他 未 払 費 用	30,343
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	791,343,330
元 本	791,400,000
次 期 繰 越 損 益 金	△ 56,670
(D) 受 益 権 総 口 数	79,140口
1 口 当 たり 基 準 価 額(C/D)	9,999円

- (注) 設定時元本額 1,000,000円  
 期中追加設定元本額 20,257,160,000円  
 期中一部解約元本額 19,466,760,000円
- (注) 元本の欠損  
 当期末現在、純資産総額は元本を下回っており、その差額は56,670円です。
- (注) 1口当たり純資産額は9,999円です。

### 損益の状況

当期 自2014年12月10日 至2015年12月10日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	60,849円
受 取 利 息	60,849
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	13,580
売 買 益	19,921
売 買 損	△ 6,341
(C) 信 託 報 酬 等	△128,254
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	△ 53,825
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 2,845
(配 当 等 相 当 額)	( 46,820)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 49,665)
(F) 合 計(D+E)	△ 56,670
(G) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(F+G)	△ 56,670
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 2,845
(配 当 等 相 当 額)	( 46,820)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 49,665)
繰 越 損 益 金	△ 53,825

- (注) 損益の状況の中で  
 (B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。  
 (C) 信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。  
 (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

### 分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券売買等損益(0円)および収益調整金(46,820円)より、分配対象収益は46,820円(1口当たり0.59円)となりましたが、当期の分配は見送らせていただきました。

## 分配金のご案内

### 分配金および分配原資の内訳

(単位:円・%、1口当たり・税引前)

項目	当期
	2014年12月10日 ～2015年12月10日
当期分配金	0
(対基準価額比率)	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	0

- (注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
- (注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

補足情報

マネーアカウントマザーファンドの主要な売買銘柄

公社債（上位10銘柄）

2014年12月10日から2015年12月10日まで

買		付	売		付
銘柄	柄	金額	銘柄	柄	金額
		千円			千円
第554回	国庫短期証券	580,000	—		—
第496回	国庫短期証券	369,987			
第503回	国庫短期証券	299,996			
第525回	国庫短期証券	299,991			
第524回	国庫短期証券	279,997			
第95回	利付国債（5年）	191,355			
第277回	利付国債（10年）	180,869			
第278回	利付国債（10年）	100,543			
第560回	国庫短期証券	59,999			
第93回	利付国債（5年）	43,026			

（注）金額は受渡代金（経過利子分は含まれておりません）。単位未満は切捨て。

## マネーアカウントマザーファンド

運用報告書（全体版） 第12期（決算日 2015年12月10日）  
（計算期間 2015年6月11日から2015年12月10日まで）

「マネーアカウントマザーファンド」は、2015年12月10日に第12期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は原則無期限です。
運用方針	安定した収益の確保を目標として運用を行います。
主要運用対象	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。

### 最近5期の運用実績、基準価額の推移等

#### 最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債組入比率	債先物比率	純資産総額
	円	騰落中率			
8期（2013年12月10日）	10,034	0.0	77.9	—	百万円 359
9期（2014年6月10日）	10,036	0.0	80.6	—	458
10期（2014年12月10日）	10,038	0.0	21.5	—	650
11期（2015年6月10日）	10,038	0.0	9.6	—	417
12期（2015年12月10日）	10,038	0.0	54.5	—	1,055

(注) 基準価額は1万口当たり。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。



## 当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額 円	騰 落 率	債券組入比率 %	債券先物比率 %
		%		
期首(前期末) 2015年6月10日	10,038	—	9.6	—
6月末	10,038	0.0	70.7	—
7月末	10,038	0.0	—	—
8月末	10,039	0.0	—	—
9月末	10,039	0.0	—	—
10月末	10,039	0.0	61.8	—
11月末	10,039	0.0	51.6	—
期 末 2015年12月10日	10,038	0.0	54.5	—

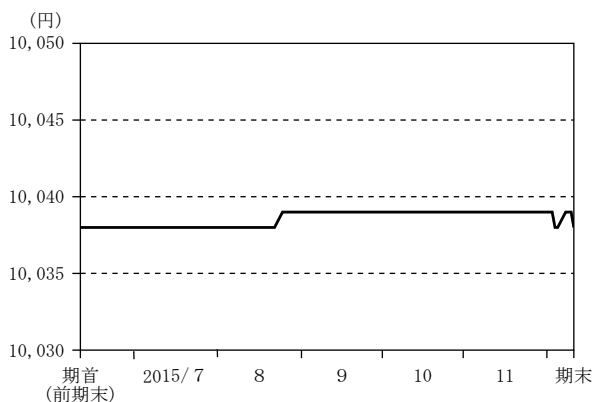
(注) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

## 当期の運用状況と今後の運用方針

### ■ 基準価額の推移



### ■ 基準価額の主な変動要因

期末の基準価額は10,038円となり、期首に比べて横ばいとなりました。

運用対象である国庫短期証券やコールローンの利回りが極めて低位で推移したため、基準価額は横ばいとなりました。

## ■ 投資環境

### 【国内短期金融市況】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは0.00%程度で横ばいに推移しました。

期初は0.001%でしたが、7月上旬に実施された国庫短期証券入札の結果が堅調だったことから利回りは一時 $\Delta 0.077\%$ まで低下しました。その後、7月中旬の国庫短期証券入札の結果が軟調だったことから再び水準を戻し、0.00%程度に上昇しました。11月に入ると日銀による買入オペ金額の拡大をきっかけに再度利回りは低下し、期末の利回りは $\Delta 0.037\%$ 程度となりました。

## ■ 当該投資信託のポートフォリオ

国庫短期証券の組入比率は、一時期マイナス利回りのため新規組入れを見送り低下した期間もありましたが、その他においては、概ね50%以上の水準とし、期末は54.5%程度となりました。残りの資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

## ■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

## ■ 今後の運用方針

今後の国内景気は、雇用所得環境の改善から持ち直すとみられますが、外需の弱さ等が下押し圧力として作用し、景気回復は緩やかなものにとどまるとみられます。さらに世界的な物価上昇圧力の低さを考慮すると、インフレ期待が急速に盛り上がる可能性は低いと考えられます。今後も日銀の国債買入が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は引続き低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、引続き短期国債等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細 (2015年6月11日から2015年12月10日まで)

当期において発生した費用はありません。

売買および取引の状況 (2015年6月11日から2015年12月10日まで)

公社債

		買 付 額	売 付 額
		千円	千円
国 内	国 債 証 券	1,449,792	— (914,000)

(注) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。単位未満は切捨て。

(注) ( ) 内は償還による減少分です。

当期中の主要な売買銘柄 (2015年6月11日から2015年12月10日まで)

公社債

買	付	売	付
銘	柄	銘	柄
		金 額	金 額
		千円	千円
第554回国庫短期証券	580,000	—	—
第524回国庫短期証券	279,997		
第95回利付国債(5年)	191,355		
第277回利付国債(10年)	180,869		
第278回利付国債(10年)	100,543		
第560回国庫短期証券	59,999		
第93回利付国債(5年)	43,026		
第334回利付国債(2年)	14,000		

(注) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等 (2015年6月11日から2015年12月10日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2015年12月10日現在)

下記は、マネーアカウントマザーファンド全体 (1,051,336千円) の内容です。

公社債

(A) 国内 (邦貨建) 公社債<種類別>

区 分	当 期			末			
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格 以下組入比率	残存期間別組入比率		
	千円	千円	%	%	5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	574,000 (60,000)	575,589 (59,999)	54.5 (5.7)	— (—)	— (—)	— (—)	54.5 (5.7)

(注) ( ) 内は非上場債で内書きです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(注) 残存期間が1年以内の公社債は、原則として償却原価法により評価しています。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(B) 国内 (邦貨建) 公社債<銘柄別>

区 分	当 期			末	
	銘 柄	年 利 率	額面金額	評 価 額	償還年月日
国債証券	第560回国庫短期証券	—	60,000	59,999	2015/12/28
	第93回利付国債 (5年)	0.5	43,000	43,003	2015/12/20
	第95回利付国債 (5年)	0.6	191,000	191,320	2016/3/20
	第277回利付国債 (10年)	1.6	180,000	180,779	2016/3/20
	第278回利付国債 (10年)	1.8	100,000	100,486	2016/3/20
合 計	銘 柄 数 金 額	5 銘柄	574,000	575,589	

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

## 投資信託財産の構成 (2015年12月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公 社 債	575,589	54.5
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	479,784	45.5
投 資 信 託 財 産 総 額	1,055,373	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

## 資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

### 資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年12月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	1,055,373,400円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	478,388,831
公 社 債(評価額)	575,589,656
未 収 利 息	149,015
前 払 費 用	1,245,898
(B) 純 資 産 総 額(A)	1,055,373,400
元 本	1,051,336,241
次 期 繰 越 損 益 金	4,037,159
(C) 受 益 権 総 口 数	1,051,336,241口
1万口当たり基準価額(B/C)	10,038円

(注) 期首元本額 416,386,688円  
 期中追加設定元本額 1,088,169,819円  
 期中一部解約元本額 453,220,266円

(注) 1口当たり純資産額は1,0038円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本の内訳

T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型) 円ヘッジ・コース	96,611,064円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型) 米ドル・コース	18,318,477円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型) 米ドル・コース	1,179,395円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型) ユーロ・コース	911,922円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型) ユーロ・コース	6,427,223円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型) 豪ドル・コース	139,539,638円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型) 豪ドル・コース	340,231円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型) レアル・コース	25,508,528円
T&D通貨トレード新興国社債ファンド(毎月分配型) インドネシア・コース	1,523,036円
T & D J リ ー ト フ ァ ン ド 限 定 追 加 型 1 4 0 2	1,196,351円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(インド・ダブル4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(インド・ダブル4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(中国・ダブル4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(中国・ダブル4)	19,925円
T&Dダブル・ベア4(ブラジル・ダブル4為替ヘッジなし4)	19,925円
T&Dダブル・ベア4(ブラジル・ダブル4為替ヘッジなし4)	19,925円
T&Dダブル・ベア4(ブラジル・ダブル4為替ヘッジあり4)	19,925円
T&Dダブル・ベア4(ブラジル・ダブル4為替ヘッジあり4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(リアル・ダブル4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(リアル・ダブル4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(金・ダブル4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(金・ダブル4)	19,925円
T&Dダブル・ベア・シリーズ4(マネー・ダブル4)	759,541,276円

### 損益の状況

当期 自2015年6月11日 至2015年12月10日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	169,573円
受 取 利 息	169,573
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 204,934
売 買 益 損	86
売 買 損	△ 205,020
(C) 当 期 損 益 金(A+B)	△ 35,361
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	1,592,073
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	4,240,181
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 1,759,734
(G) 合 計(C+D+E+F)	4,037,159
次 期 繰 越 損 益 金(G)	4,037,159

(注) 損益の状況の中で

(B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(F) 解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。